



# 学校図書館だより 1月

令和4年1月24日  
荒川区立第三中学校  
校長 小柴憲一  
学校司書 中山理恵

## うちどく 「家読」家族のおすすめ本インタビュー！



12月に家族や身近な人のおすすめ本を聞いて用紙に書いてきてもらいました。

その数、全校で261枚にもなりました！

お忙しい中、ご協力いただいた保護者の方ならびに身近な方に、篤くお礼申し上げます。  
いま、図書館内外の壁に、すべての紹介文がずらりと並んでいます。



図書館外の壁



図書館中の壁

ドストエフスキーや太宰治などの文豪の作品や、今人気の小路幸也、東野圭吾、海外のミヒャエル・エンデのファンタジーなど幅広くおすすめいただきました。保護者の方はもちろん、兄弟・姉妹に聞いた人、身近な塾の先生や家庭教師に聞いてくれた人もいました。その中からいくつか抜粋してご紹介させていただきます。

### ●母『モモ』ミヒャエル・エンデ

子どもの頃に読んで、宝物になった作品です。学生、社会人、親となり、その時ごとに気づくことがあり、自分にとって大切な本です。

### ●母と父『14歳からの哲学』池田晶子

題名のとおりに、14歳が読む本にふさわしい。「考える」とはどういうことか、具体的なことまで深く考えさせられるところがポイント。「知りたい」という気持ちをもって読むと良い！

### ●父『天地明察』<sup>うぶかたとう</sup>冲方丁

面白くて一気に読みました。1つのことを成し遂げようとする人の姿が美しく何度読んでも感動します。たくさん迷ってじたばたしているとき、勇気をもらいたいとき、ぜひ読んでみてください！！

### ●母『Becoming』ミシェル・オバマ

人にはたくさんの可能性があり、最初は小さい価値のない物(人)だとしても、目標に向かってがんばったら成功するという深いメッセージが詰まっている。

### ●父『二十四の瞳』壺井栄

戦争の悲劇を通して、平和の大切さと現代社会に大きく欠けている大石先生と子供達の純粋さに触れ人と人とのつながりやあたたかさを知ることができる。今の子供達に是非読んでもらいたい一冊。

### ●母『10代に伝えたいマンガでわかる!人生を前に進める名言集』足政敬子

2年前に購入して今でも心を整えたい時に読んでいます。大谷翔平選手や大阪なおみ選手など皆知っている人のエピソードが載っていてとても読みやすいです。自分の心を支えてくれる言葉がたくさん出てきます。ぜひ読んでみてください。

おすすめいただいた本は、ブックトラックにピックアップして貸し出ししやすいように工夫する予定です。図書館に所蔵がない本は、順次購入する予定です。

ありがとうございました！

## 第25回 図書館を使った調べる学習コンクール 受賞者

全国コンクール 優良賞 3年 濱田 莉々果 「甘いコーヒー 苦いコーヒー  
～南北格差とフェアトレード」



奨励賞 3年 伊藤 颯真 「質の高い教育を」  
佳作 2年 小原 ゆい 「二度と繰り返したくない戦争  
～アジア・太平洋戦争を知る～」  
佳作 3年 五十嵐 遥花 「ジェンダーについて 知りたい！」  
佳作 3年 磯貝 優里 「どっちが薬か毒か分かりますか？  
～質の高い教育をみんなに～」  
佳作 3年 小林 千紗都 「すべての人に安全な水とトイレを」  
佳作 3年 中村 心 「世界の教育問題～質の高い教育を目指して～」  
佳作 3年 三宅 陽菜子 「世界の妊産婦と赤ちゃんを救え！」  
佳作 3年 村上 果歩 「命を支える水」  
佳作 3年 渡邊 愛果 「世界の飢餓問題～飢餓をゼロに～」

荒川区コンクール 教育委員会賞 3年 渡邊 愛果 「世界の飢餓問題～飢餓をゼロに～」  
校長会賞 3年 磯貝 優里 「どっちが薬か毒か分かりますか？  
～質の高い教育をみんなに～」  
奨励賞 3年 濱田 莉々果 「甘いコーヒー 苦いコーヒー～南北格差とフェアトレード」

今年度は、2年生は自由テーマ、3年生は弁論大会のテーマ「国際理解」で、調べる学習コンクールに応募しました。受賞者以外の生徒作品にも数多くの力作がありました。

### 輝夕祭 展示の部 ～調べる学習コンクール作品～

3年生全クラスの調べる学習コンクール作品を本と共に展示しました。14日に全学年の生徒が鑑賞を行いました。他学年の生徒も3年生の作品を熱心に見る姿が印象的でした。



## 大盛況でした！12月読書週間の「謎解きライブラリー」

図書委員会主催の読書週間のイベント「謎解きライブラリー」。55人もの皆さんが楽しんでくれました！図書委員が粘りに粘って考えた問題は、かなりの難度で2日に渡って解きに図書館を訪れたり、グループで力をあわせて答えを見つけたりする人もいました。最初の問題を解けた人が挑戦できる「Extra Question!」も凝っていて、謎解きにやってきた人を悩ませました。「図書館でもっと楽しいイベントをしてほしい」という生徒のみなさんの声から生まれたイベント。図書委員のがんばりで、楽しいものになりました！



これはどういう意味なの？



え～と、あ！これかも

